

ニ若者様

今週の

倫理

日に「たつたかーの良き行」

2021. 8. 7~8. 13

このリズムが人生だわ。

8月のテーマ | 倫理経営

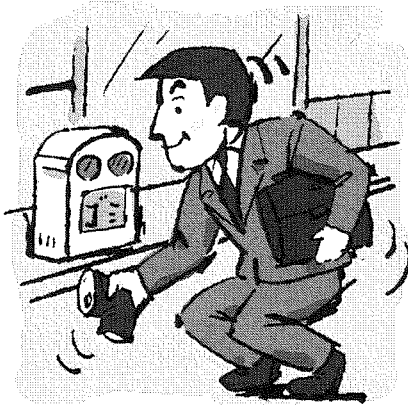
1241号

草七郎がアホ息

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

日にひとつ、よいことを行なおう！
そして、人のために尽くし、日本を美しくし、世界の平和づくりに貢献しよう！
「ひとつなんて、そんなちっぽけな」とあなどる人があるかもしれない。一日に三回でも五回でも、人のためになることなら何度でもやるようではなくては、と思われるかもしれない。それは一応、もつともだ。よいことなら何回でもやればやるほどよいに決まっている。だから一日に一回だけで、二回するなど言っているのではない。まず一回でもよい。それ以上を目指してやってゆこうというのである。

実のところ、その一回だって案外やっていないのではなからうか。もちろん朝から晩まで、人のために奉仕活動を実践している尊い人たちもいる。しかし一般の人たちは、だいたい自分のことだけを思って暮らしているのではなからうか。利己主義者（エゴイスト）とまではゆかないとしても、自分のためだけに憂き身をやつしていることが多いのではなからうか。
よいことは、それが人から喜ばれることであり、人の幸福にいくらかでも役立つこととである。たとえば道に落ちていたゴミを拾ってきれいにする。風のために倒されて



日にひとつよいことを

丸山竹秋

いる小さな立看板をおこしてやる。店の前にたたくさん自転車が置いてある。その中の一台がちよつとはみ出していて、通行人や自動車などが迷惑している。それをちよつと引っこめてやる。

老人に席を譲る。清掃にくる作業員に「ご苦労さん、ありがとう」と声をかける。これらもすべてよいことだ。一日に三回やれとか、五回しなければならぬとか、そうした窮屈なことでは、かえって難しくなる。むしろ気楽な気持ちで、一回でもよいから実行しようとする。これが非常にすばらしいと思う。

一回やれる人は、実は二回でもやれる。二回できる人は三回でもできる。「たったの一回か」などとあなどる人は現実には、その一回すら実行できないかもしれない。

しかしここでは、そうした職業上のことではなくて、奉仕的な意味のことを第一義とする。それをするこゝろによつて報酬を得られるとか、賞賛を博するとか、そうした目的を持ってやるのではない。自分の利益をぬきにした純粋な意味の、人のために尽くすことである。それを手近にある実行しやすいことから始める。毎日、何かそれを続けてやる。時には大々的にやるのもよいが、とにかく自分ひとりでもやれる、そうした実践をいうのである。

この一日にひとつということが大切だ。一日二十四時間のリズムの繰り返し。これが人生である。

〔選集〕より